鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
（平成 28 年 7 月 1 日）

衛霊公 第十五

【二一】子曰く、君子は矜かにして争わず。群して党せず。

君子は人格者でよいと思います。人格者はいつも厳かで人と争うことはしない。一見すると近寄りがたい威厳をもっている。人格者になればなるほど氣品も出るし風格も漂うので、声をかけづらくなる。したがって争うことはしないと見えてくれば、そういう態度になってくるものだ。そういう態度になった場合は、人様から何かを言われても、淡々と話をするし、お付き合いもする。そう受け止めてください。

今の政治家でいえば、民進党に入るとか、自民党に入るとか、最近は色々な党があるけれど、党派に入らないで無党派でいくのではないでしょうか。この間、参議院選挙で不在者投票をしてきました。頭で何となく応援する人物を書いたら「比例も入れてください」と言われたので眺めてみました。政党が多いこと。社民党をみたら、元党首の人と新しい党首が競い合っていました。こういう人達はみな君子ではないなと思いながら見ました。

自分で人格者という方向に行きたいと思うのであれば人と争わないようにする。態度も厳正中立でいけば良いと思います。佐藤一斎が書いた『住職心得箇条』は、具体的に書き記しています。御覧になる機会があったら、どうぞ御覧いただきたいと思います。

【二二】子曰く、君子は言を以て人を挙げず。人を以て言を廃てず。

君子・人格者はというよりは、人の上に立つ人、もしくは人物と思われている人。そう捉えると、何を言ったかということで、その人を評価はしない。どういう行動を取ったかということで評価をする。その人がおこなったことに対して評価をするのであって、何を言ったかでは評価をしないことです。

先ほど「吟題を選んでください」と言われたので眺めていましたら、佐久間象山の詩がありましたので、これも良いなと思いました。

長岡藩の河井継之助が人生の師匠・山田方谷を尋ねたときに、佐久間象山のことを聞いたところ、山田方谷が「温良恭謙譲の一字の何れもない」と評しました。佐久間象山は鼻持ちならない。態度が大きくて、温良恭謙譲の一文字もないというようなことを言ったら、二人とも意見が一致したということです。**「人を以って言を廃てず」**佐久間象山がいくら氣

に喰わない人でも、良い科白を言ったら、その科白を評価するので、その人物によって評価をしたりしなかったりはしない。

これをひっくり返してみれば、先ほど申し上げた参議院選挙で誰に投票するかについては、そのまま使えるのではないでしょうか。良いことを公約してくれますが、公約したあと我々日本人は、その後をなかなか追いかけない。どういうことをやったかを見ればよい。例えば小沢一郎さんが、東日本大震災の時に現地には行かなかった。それで奥さんが三行り半を亭主につきつけた。結果として、生活の党の人達は、ほとんど落選しました。やはり現実の世界でも、こういうものの考え方が通っていると実感しました。

昨日は福島県郡山に参りまして、汚染地域の汚染に対する保証金を受け取った組合の組合長と話をしました。その話の中で、原発の問題があったときに、郡山の幼稚園に通っているアメリカ軍の子供達は即刻返してくれと親達から連絡がいき、幼稚園側は必死になって車を調達し親もとに子供を即座に帰した。即座に返せときたから即座に返した。今月号の文芸春秋をみると、あの時は風が陸地に吹いていた。それが海に向って吹いた時、その風をうけたアメリカ兵が亡くなっています。小沢一郎さんは、そういう話を聞いて怖くて行けなかったんだろうという感じがします。生き残っている人達もアメリカ政府に保障を求めないと一筆とられていたので、アメリカ政府には求めないけれど、日本の東電に対しては保障請求を求めて裁判沙汰になっていると今月号に載っています。

【二三】子貢　問いて曰く、一言にして、以て終身之を行うべき者有りやと。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれと。

念押しで申し上げますが、**「之を行（おこな）うべき者」**を吟じる時には、「おこなう」と書いてあっても「おこのう」と読みます。普通に「おこのう」と年配の方は読みますが、今回は意識して書いてある通りに読みました。最近の小学校で論語を素読することが増えているようですが、その場合も「子曰く（し いわく）」で教えています。「子曰く（し のたまわく）」で読みたい場合はそう読みます。御自分の時は、好きなように読めばよいです。

子貢が「たった一言で、一生涯実行し続けるような良い言葉があるでしょうか」と聞きました。なぜ子貢がこういうことを聞いたのか、ちょっと氣になります。子貢は一を聞いて三を悟る人物です。自分の腹の中にはこれに対する答えがありながら、聞いているのだろうと思いますが、孔子はそれを頭の中においておき、子貢の性格をみながら、こういう言い方をしたのだと思います。

「其れ恕か」は、思いやりだよと言い、思いやりの解説は**「己の欲せざる所は人に施す**

ことなかれと」いう解釈ですが、自分が嫌だと思うこと自分がしてほしくないことは、してはいけない。裏返せば、自分がして欲しいことは、人にどんどん施しなさいと捉えてください。これは安岡正篤先生の娘さんが結婚した時、娘婿に対して順調な一生をおくりたいのなら、ポストが欲しい人には、どうぞお先にと地位は譲りなさい。お金が欲しい欲しいと思うと人様に頭を下げなければいけないから、お金も欲しいとは、あまり思わないように。自分の人生はなるべく人に頭をさげず、地位を欲しがらずといったら、よい一生を送れるからと娘婿に対して教えた。本人はそういう一生を送りましたが、家族は困ったことが何度もそれによって起きているという実例がありますので、ここも自分自身に置き換えて考えてみてください。

自分が嫌だと思うことは、人にはやってはいけない。ここは役に立つ部分です。自分の手を胸にあてて考えてみれば、やって欲しくないことを人にはやっていると自戒をしましょう。

自分がやりたいなと思うことを人に勧めるのは一見よいですが、地位やお金が欲しいという人ばかりではないですから、最終的には自分がして欲しくないと思うものは、人にはしなさんなと止めておくのが無難だねという解説が落ち着きます。

「己の欲せざる所は」を小池百合子さん流にあてはめると、また意味合いが変わってきます。東京都連とは感覚が違いすぎるから、これは自分でさてどういうものがよいかなと考えるところに妙味があると私は思っています。自分が納得すればよい。

子貢という人物を見ながら孔子が言ったと思えば、子貢の人物像がみえてくるところが楽しいと思っています。孔子がお金がなくて苦しいときに、子貢はお金を稼ぐのが上手な人でしたから、一所懸命お金を稼いでみんなを食べさせるので、必要な人物ではあります。目から鼻に抜けるような弟子ですから、お前やりすぎだと孔子は思っていたようです。孔子は顔回が好きですものね。時々、子路や顔回、子貢を比較するのは面白いと思います。